

滋賀県平和祈念館 年報

第 1 号

(平成 23, 24 年度)



滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、県民の戦争体験を語り継ぎ、平和を願う心を育む施設として、平成 24 年（2012 年）3 月 17 日に開館しました。当館では、「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」の 3 つを基本理念としており、この基本理念に沿って様々な活動を実施してきたところですが、このたび、年報というかたちで、開館から平成 24 年度までに実施した事業の実施報告をさせていただくこととなりました。

当館は、開館して間もないこともあり、現在も試行錯誤を続けながら運営を進めているところです。したがって、現状はまだまだ完成されたものではありません。これからも日々、館の運営を見直し、改善を行ってまいりたいと考えております。本誌をご高覧いただいた皆様におかれましても、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

今後とも当館の運営にご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 25 年（2013 年）12 月

滋賀県平和祈念館

館長 端 信 行

目 次

はじめに	1
I 事業概要	
1 展示事業	
(1) 企画展示	3
(2) 特別企画展示	18
(3) 地域交流展示	19
(4) 他館との交流展示	22
(5) その他の展示	24
2 資料収集保存事業	
(1) 戦争体験聞き取り調査	25
(2) 収蔵資料の整理・保存	26
3 普及啓発事業	
(1) 開館記念講演会	27
(2) 平和学習講座	27
(3) 館長講座「自分史づくり講座」	28
(4) 戦争遺跡見学フィールドワーク	28
(5) 戦争体験者お話し会	29
(6) 学童保育所への夏季平和学習プログラム	30
(7) へいわの学校☆あかり	31
(8) こども体験学校「アロマキャンドルづくり」	31
(9) 平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	32
(10) ピースメッセージコンクール	33
(11) 開館1周年記念イベント「平和祈念のつどい」	34
(12) その他一般向けの普及啓発事業	36
4 平和学習支援事業	
(1) 来館学習の支援	37
(2) 出前授業	38
(3) 資料貸出	39
(4) 活用の手引き・実践事例集の発行	40
5 ボランティア活動支援事業	41
II 資料	
1 利用状況	43
2 広報活動	47
3 組織	50
4 決算	51
5 施設概要	52
6 利用案内	53
7 関係規程	54

I 事業概要

1 展示事業

(1) 企画展示

第1回企画展示 「滋賀の戦争」



第1回企画展示

会期：平成24年（2012年）3月17日～7月16日

会場：滋賀県平和祈念館企画展示スペース

関連展示：「慰問袋」「軍装品」「代用品」

開催趣旨と概要

本企画展示「滋賀の戦争」は、これまで収集してきた県民の戦争体験とそれにまつわる当時の資料の中から、「八日市飛行場」「集団学童疎開」「戦時の暮らし」「県民の戦場」「満州・シベリア抑留」「学徒勤労動員」「滋賀県の空襲」の7つのテーマを取り上げ、人びとはどのような経験をされ、何を感じていたのか、また、滋賀においてどのような生活が営まれていたのかを、戦争体験談を通して、滋賀県が経験した戦時の出来事を紹介するものである。



開館告知チラシ表面



開館告知チラシ裏面

展示構成

「八日市飛行場 ―飛行場があった街―」

大正4年(1915年)、八日市に日本初の民間飛行場が建設され、その後陸軍の飛行場となり、戦争中は、多くの部隊が戦地へと向かった。戦争末期には、飛行場に対して空襲がたびたびあり、飛行場の周りで暮らす人たちは、空襲におびえる日々を過ごさなければならなかった。



「集団学童疎開 ―戦火を逃れてやって来た子どもたち―」

昭和19年(1944年)8月31日から9月2日にかけて、大阪市内の東区、南区(ともに現在の中央区)、浪速区、北区から、今の小学校3年生から6年生にあたる子どもたち1万人以上が、滋賀県にやってきた。子どもたちは、家族と離れて寂しい思いの中、集団生活をおくっていた。終戦を迎え、大阪へ帰れたのは昭和20年(1945年)10月ごろだったが、待っていたのは空襲で焼けてしまった大阪であった。



「戦時の暮らし」

日々の生活では、金属や食糧の「供出」や、戦地に行く兵士の見送り、空襲に備えた防空演習、本土決戦に備えた訓練などが行われ、戦争の影響を受け、変化していった。こうした戦争を支える地域や人びとは「銃後」とよばれ、その中心は女性たちだった。



「県民の戦場 ―死が目の前に―」

長い戦争の間に多くの人が戦争に行き、約 630 万人が全国から召集され、滋賀県からは約 95,400 人の人たちが日本軍の軍人として戦い、32,592 人の滋賀県出身者が犠牲となった。戦場となった東アジアや東南アジアでは約 2,000 万人もの兵士や一般市民が犠牲になったといわれている。



「満州国・シベリア抑留 ―ふるさとを遠く離れて―」

昭和 6 年(1931 年)、中国東北部で起こった満州事変以後「満州国」が建国され、国策により多くの人が移住した。しかし、満州で終戦を迎えた人は、悲惨な状態におかれ、混乱のなかで亡くなった人たちも少なくない。また、ソ連軍の捕虜としてシベリアなどに連行された人たちも多く、空腹と厳しい環境のなかで多くの人が亡くなった。



「学徒勤労働員 ―勉強よりも増産―」

戦争が長引くとともに労働力が不足し、生徒も授業の合間に働き手として動員され、内湖干拓作業や、軍需工場などで働かなければならなかった。昭和 20 年(1945 年)には、国民学校高等科の子どもたちまでもが、働くために動員されるようになった。



「滋賀県の空襲」

滋賀県では、昭和 20 年(1945 年)5 月から空襲が始まり、次第に軍事施設や軍需工場、駅などを中心に空襲の頻度が多くなっていった。また、琵琶湖は本州各地の空襲の目的地に向かう際の目印になっていたため、たびたび空襲警報が発令され、県民はそのたびに防空壕や安全な場所に避難しなければならなかった。



関連展示

企画展示テーマに関連し、収蔵展示スペースにおいて、離れなければならなかった家族や知人への想いについて「慰問袋」、出征した兵士について「軍装品」、そして日常生活が戦争の影響で変化したことについて「代用品」の3つの視点より、収蔵資料を紹介した。



収蔵展示



「慰問袋」



「軍装品」



「代用品」

第2回企画展示 「家族の絆 ―県民の戦場―」



第2回企画展示

会期：平成24年（2012年）7月20日～9月23日

会場：滋賀県平和祈念館企画展示スペース

関連展示：「子どものおもちや」

開催趣旨と概要

本企画展示「県民の戦場」は、3名の体験談に焦点をあて、手紙や資料などから失われなかった家族の絆を通じて、平和について考える場の形成を目指すものとする。身近な地域でも、多くの人が戦争で亡くなっていること、戦争で苦しんだ人がいることを知るために、現在では行われていない「召集・応召」「村葬」とともに、当時のくらしを紹介し、子どもたちが夏休みの平和学習で活用できる環境づくりも行った。



第二回企画展示チラシ表面

展示構成

「召集・応召 ―戦争に行くということ―」

終戦までほとんどの男性は、20歳になると、徴兵検査を受けなければならなかった。

徴兵検査に合格すると召集令状が届き、応召して入隊した。応召はとても名誉なことでされ、家族や地域の人たちがにぎやかに見送っていたため、家族との別れに涙を見せることや、無事を祈るような気持ちを出すことはできなかった。



「県民の戦場 ―死が目の前に―」

滋賀県からは約 95,400 人の人たちが日本軍の兵士として戦い、32,592 人の滋賀県出身者が犠牲となった。ここでは、海軍特攻隊員として戦死された碓本守さん、衛生兵として 3 度の召集を受け、戦死された青木勘四郎さん、学徒出陣として早稲田大学在学中に出征された熊谷直孝さんの体験を紹介する。



「合同葬・村葬 ―無言の帰還―」

亡くなった兵士の葬儀は、故人への感謝とご遺族へのいたわりの心を込め、村などが主催の合同葬として、学校の講堂や公民館などで盛大に行われた。亡くなった兵士は「名誉の戦死」とされ、残された家族は悲しみを抑えて万歳で迎えなければならなかった。その後、終戦が近づくにつれ、葬儀は簡素化されていった。



「集団学童疎開 ―戦火を逃れてやって来た子どもたち―」

昭和 19 年（1944 年）8 月 31 日から 9 月 2 日にかけて、大阪市内の東区、南区（とも

に現在の中央区)、浪速区、北区から、今の小学校3年生からから6年生にあたる子どもたち1万人以上が、滋賀県にやってきた。子どもたちは、家族と離れて寂しい思いの中、集団生活をおくっていた。終戦を迎え、大阪へ帰れたのは昭和20年(1945年)10月ごろだったが、待っていたのは空襲で焼けてしまった大阪であった。



「戦時の暮らし」

日々の生活では、金属や食糧の「供出」や、戦地に行く兵士の見送り、空襲に備えた防空演習、本土決戦に備えた訓練などが行われ、戦争の影響を受け、変化していった。こうした戦争を支える地域や人びとは「銃後」とよばれ、その中心は女性たちだった。



「滋賀県の空襲」

滋賀県では、昭和20年(1945年)5月から空襲が始まり、次第に軍事施設や軍需工場、駅などを中心に空襲の頻度が多くなっていった。また、琵琶湖は本州各地の空襲の目的地に向かう際の目印になっていたため、たびたび空襲警報が発令され、県民はそのたびに防空壕や安全な場所に避難しなければならなかった。



関連展示

企画展示内の「戦時の暮らし」に関連し、現在の子どもたちが自分の日常と比較しや

すくするための工夫として、収蔵展示スペースにおいて、戦時中の子どもたちの身近にあった「おもちゃ」「お菓子のパッケージ」「紙芝居」の3つのカテゴリーより、収蔵資料を紹介した。



第3回企画展示 「八日市飛行場 ―飛行場があった街―」



第3回企画展示

会期：平成24年（2012年）9月28日～12月22日

会場：滋賀県平和祈念館企画展示スペース

関連展示：「子どものおもちゃ」→前回企画展より継続

開催趣旨と概要

本企画展示「八日市飛行場 ―飛行場があった街―」は、八日市飛行場と、飛行場とともに発展してきた八日市を中心とする東近江をテーマに、地域に残る戦争の記憶を資料と体験談からたどる。また、8月に一般の方より募集をした、八日市飛行場に関連する資料を同時に展示することで、館運営の理念のひとつでもある「県民参加型の運営」への取り組み事例とした。



第3回企画展示チラシ表面



第3回企画展示チラシ裏面

展示構成

「陸軍八日市飛行場」

八日市飛行場は、日本で初めての民間飛行場である「沖野ヶ原飛行場」を前身として

いる。その後、陸軍に航空大隊が編成され、地元の陸軍飛行場誘致活動もあり、航空第三大隊が八日市へ配属されることになり、航空第三大隊の開隊とともに名称も「八日市飛行場」へと改められた。飛行場での出来事を、整備等を行っていた航空分廠と、航空隊からの視点に分け紹介している。



陸軍八日市飛行場航空分廠



陸軍八日市飛行場航空隊



陸軍八日市飛行場全体



「八日市飛行場 ―飛行場があった街―

大正4年（1915年）、八日市に日本初の民間飛行場が建設され、その後陸軍の飛行場となり、戦争中は、多くの部隊が戦地へと向かった。戦争末期には、飛行場に対して空

襲がたびたびあり、飛行場の周りで暮らす人たちは、空襲におびえる日々を過ごさなければならなかった。飛行場とともに発展してきた八日市に残る記憶をたどる。



「学徒勤労動員 ―勉強よりも増産―」

労働力の不足を補うために、生徒も授業の合間に働き手として動員され、内湖干拓作業や、軍需工場などで働かなければならなかった。ここでは、八日市飛行場や内湖干拓での体験に焦点をあて、東近江近隣で行われていた学徒勤労動員について紹介する。



「滋賀県の空襲」

終戦間際になると滋賀県でも、軍事施設や軍需工場、駅などを中心に空襲の頻度が多くなっていった。八日市飛行場があった八日市や、軍事工場であった能登川を中心とする東近江地域でもたびたび空襲の被害に遭い、子どもを含む犠牲者が出た。記録に残るものと、人びとの記憶にだけ残っている空襲の体験に分けて、当時の出来事を明らかにする。



「戦時の暮らし」

物資の不足や防空訓練などで、日々の生活は戦争の影響を受け、変化していった。こうした戦争を支える地域や人びとは「銃後」とよばれ、その中心は女性たちだった。生

活の変化は大人だけではなく、学校生活や遊びに至るまでの子どもたちの暮らしにも現れるようになる。八日市の街ではどのような変化があり、どのような出来事があったのかを、大人と子どもの視点から考えてみる。



「八日市飛行場に関する情報提供コーナー」の設置

来館者の中で、八日市飛行場に関する体験や思い出をお持ちの方から、情報提供をしていただけるようにコーナーを設置。職員やボランティアとの会話で聞かせていただいた情報も含めて加えていくことで、地域の記録を一緒に残していける環境づくりを行った。



第4回企画展示 「語りつぐ記憶 一戦時を生きた人びとの体験―」



第4回企画展示

会期：平成25年（2013年）1月5日～6月23日

会場：滋賀県平和祈念館企画展示スペース

関連展示：「除隊記念品」「出征について」

開催趣旨と概要

本企画展示は体験談に焦点をあて、戦争を体験された地域の人びとの記憶を紹介する。現代に生きる自分との接点を見つけやすい環境づくりを目指して、滋賀県内の旧50市町村より1名ずつ選び、戦地、銃後、大人、子どもなど、身近な地域に住む人びとの体験から、それぞれの想いや願いに触れ、平和へのねがいを現在へと語りつぐきっかけを目指す。



第4回企画展示チラシ表面



第4回企画展示チラシ裏面

展示構成

「地域に残る体験」

人びとの「記憶」から、戦時を生きた人びとの想いにふれ、ゆっくりと身近な地域の

人びとの「記憶」にふれることで、体験者それぞれの思いや願いを利用者一人ひとりが感じられるよう「湖南」「湖東」「湖西」「湖北」の4地域に分け、より利用者が自分との距離を短く感じられるような環境をつくった。



「記憶を伝える」

それぞれの「記憶」を現代に伝えるための滋賀県平和祈念館の取り組みや、戦争体験者の語り部活動について紹介し、戦争体験を語りつぐための新たな行動が生まれることを目指す。



関連展示

企画展示の体験談で出征に関する話題が多かったため、現在ではなくなってしまった制度である「出征について」と、兵役を終え、無事に帰宅することができたという挨拶

代わりに進呈されていた「除隊記念品」についてをテーマとし、収蔵展示スペースにおいて収集資料を紹介した。



(2) 特別企画展示

第1回特別企画展示 「群像」



第1回特別企画展示

会期：平成24年（2012年）3月17日～平成25年（2013年）3月30日

会場：滋賀県平和祈念館エントランス

開催趣旨

本特別企画展示「群像」は、滋賀県平和祈念館基本理念のひとつである「モノと記憶の継承」から、戦時を生きた人びとの写真を展示した。戦争中はすべての人びとが時代に翻弄されつつも、戦後70年近い年月が経過し、戦後生まれが多くを占めるようになってきた中、これまで収集してきた戦争体験とそれらにまつわる当時の資料を通して、戦争体験者それぞれの思いや平和への願いを次世代へと伝えていく施設を目指すというメッセージが込められている。

(3) 地域交流展示

第1回地域交流展示 「群像」



会期：平成24年（2012年）3月17日～
5月27日

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

第1回地域交流展示

開催趣旨

本地域交流展示「群像」は、エントランスで展示した第1回特別企画展示と連動して開催したものである。特別企画展示と同じく「モノと記憶の継承」をテーマとし、収蔵資料の中から、平時・戦時に関わらず集合写真を選び、写真展を開催した。

第2回地域交流展示 「八日市の大凧」



会期：平成24年（2012年）5月30日～
7月16日

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

ボランティア大凧グループによるミニ大凧作成作業

開催趣旨

滋賀県平和祈念館の立地する東近江市八日市地区には、江戸時代より男の子の誕生を祝って、5月の節句に凧を上げる文化がある。それに関連して、現在でも東近江大凧祭が開催され、大凧づくりボランティアグループがミニ大凧を作成し、出品をした。そこで、ボランティアの活動紹介とともに、八日市の大凧文化について紹介した。

第3回地域交流展示 「八日市飛行場 一戦前・そして戦後」



第3回地域交流展示ポスター

会期：平成24年（2012年）9月28日～
11月4日

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

開催趣旨

第3回企画展示「八日市飛行場 一飛行場があった街」と関連させ、八日市飛行場を中心とした地域での出来事を、戦前は「翦風号を甦らせる会」、戦後は「東近江市南部地区まちづくり協議会」のこれまでの活動成果を通して紹介した。



第4回地域交流展示 「平和学習成果展」

会期：平成25年（2013年）2月20日～5月下旬

会場：滋賀県平和祈念館地域交流室

開催趣旨

県内の小学生が平和祈念館を活用して戦争や平和について学習し、その成果をまとめた作品を展示した。また、平成25年（2013年）3月7日には、地元愛東北小学校6年生の児童による学習発表会を開催した。県内小学校17校の児童の作品を展示した。



(4) 他館との交流展示

平成 24 年度平和祈念展示資料館・滋賀県平和祈念館「平和祈念交流展」

開催趣旨

「兵士」「戦後強制抑留者」「海外からの引揚者」等のテーマを扱う関係館と連携し、双方の館が所有する資料等を有効活用しながら、多様な形態でより効果的に関係者の労苦を語り継ぐ展示会等を実施し、相乗効果を高める。

○滋賀県平和祈念館における展開

名 称 : 平和祈念交流展

「シベリア強制抑留いろはかるた—斎藤邦雄の世界—」

会 場 : 滋賀県平和祈念館 地域交流室

開催期間 : 平成 24 年 (2012 年) 11 月 7 日～11 月 25 日

対 象 : 開催期間に平和学習で来館する小学生・中学生をメインに
若年層からシニア層

展示構成 : ①平和祈念展示資料館の活動紹介

バナーや映像を使用して、平和祈念展示資料館の存在をアピールし、認知拡大に繋げる。

②資料展示

戦後強制抑留者の労苦に関連するイラストのパネルと複製資料を展示し、関係者の労苦についての理解促進を図る。

事業主体 : 共催 滋賀県平和祈念館・平和祈念展示資料館 (総務省委託)



○平和祈念展示資料館における展開

名 称 : 平和祈念交流展

滋賀県平和祈念館×平和祈念展示資料館

会 場 : 平和祈念展示資料館 特設展示コーナー2・3

(東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 48 階)

開催期間 : 平成 24 年 (2012 年) 9 月 19 日～12 月 25 日

対 象 : 若年層からシニア層

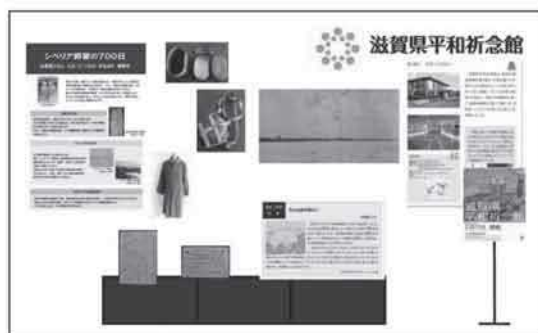
展示構成 : ①滋賀県平和祈念館の活動紹介

開館ポスターおよび活動紹介のパネルを展示して、滋賀県平和祈念館の存在をアピールし、認知拡大に繋げる。

②資料展示

滋賀県在住の戦後強制抑留者および海外からの引揚者の体験者資料をパネル展示し、関係者の労苦についての理解促進を図る。

事業主体 : 共催 平和祈念展示資料館 (総務省委託)・滋賀県平和祈念館



(5) その他の展示

語りつぐ、ふるさと滋賀の風景



会期：平成 24 年（2012 年）7 月 20 日～

会場：滋賀県平和祈念館 2 階 ロビー

「語りつぐ、ふるさと滋賀の風景」チラシ

開催趣旨

滋賀県は、美しい琵琶湖、そのまわりに広がる田園、これらを取りまく山々、その中に点在するまちや集落など、自然と人々の生活とが一体となって、湖国の風景が形づくられてきた。本展示では、昭和の初めの県内各地の写真を「水辺」、「街並み」、「里山」の3つの視点から展示を行い、現在の風景と比べてみて、身近な地域の出来事を知るきっかけづくりを目指した。

平和を願う子どもピースメッセージコンクール作品展示

会期：平成 24 年（2012 年）11 月 1 日～12 月 2 日

会場：滋賀県平和祈念館 2 階 ギャラリー

開催趣旨

次世代を担う子どもたちが、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子どもたちが描く絵画を通して、広く県民に平和への思いを伝えることを目的として実施した。県内の小学校 5 年生から中学生を対象に作品を募集したところ、13 市町 20 校から 383 点の作品応募があり、すべての応募作品を展示した。



2 資料収集保存事業

(1) 戦争体験聞き取り調査

滋賀県平和祈念館では、戦争当時滋賀県にお住まいだった方、あるいは滋賀県にご縁のあった方を対象に、調査員2名を配置して戦争当時の話の聞き取り調査を行っている。体験者の方の高齢化が進む中、一人でも多くの方の体験を記録として残すことが急務となっている。平成24年度末までに、1,559名から体験談を聞くことができた。

① 聞き取りをする

戦争を体験された方から、直接調査員がお話を聞いている。この時に聞き取りしたことは、本人の了承を得て録音し、音声データや動画も保管している。資料をお持ちの際は資料を見ながら聞き取りをすることもある。



聞き取り調査風景

② 記録する

聞き取りした体験談は、口述のままでできるだけ忠実に再現して文章化する。お話の内容に関して調査員以外が読んでも分かりやすいよう、別の資料から補足的な説明をつけたり、わかりにくい言葉に説明を足したりすることもある。



文章化する

③ 調査票として保管する

文章化したものを、聞き取りをした本人に確認してもらい、変更箇所は修正を行う。完成したものは、調査票として滋賀県平和祈念館の一次資料として保管している。



調査票として、データと紙媒体で保存

(2) 収集資料の整理・保存

滋賀県平和祈念館では、体験談にまつわる資料や、戦争当時の滋賀県に関連する資料 30,000 点以上（平成 24 年度末現在）を収集し、その整理、保管を行っている。寄贈いただいた資料は、各家庭で長期間置いておかれたものが多く、保存状態もまちまちである。現在の状態をこれからも保ち、次世代へ伝えていくために、適切な保存作業を日々行っている。

① 施設

収集する資料は、個人のライフヒストリーに関連するため、兵事に関するものから、日用品まで多岐に渡っている。そのため、資料それぞれの性質によって異なった扱いが必要となることから、資料の性質によって収蔵庫を 5 つに分け、温度、湿度、光の管理、生物被害対策をとっている。



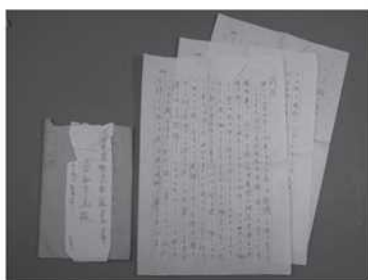
② 収蔵資料

これまでに多様な種類で膨大な量の資料が収集され、現在も資料の寄贈が続いているため、日々の資料整理が必要となる。そのため、寄贈者別に資料を整理し、資料の性質に見合った処理を施し、利用に向けて配架、整備、保管を進めている。



資料整理風景

平成 23 年度収集資料（一例）



戦地から出された家族への手紙
野洲市 嶋村勝枝さん提供



予科練制服（上着）
東近江市 石島平吉さん提供



予科練制服姿写真
東近江市 石島平吉さん提供

3 普及啓発事業

(1) 開館記念講演会

平成 24 年（2012 年）5 月 20 日、裏千家 15 代家元 大宗匠 千 玄室氏を講師に迎え、「まことの平和は」と題して開館記念講演会を開催した。講演会には 360 人の参加者があり、茶道裏千家淡交会滋賀支部のみなさんの協力により、お茶が振る舞われた後、千氏の戦争体験や日本の伝統文化の根幹を形成する家元としての豊かな経験に基づく話に熱心に耳を傾ける姿が見られた。



(2) 平和学習講座

<第 1 期>（4 回連続講座・平成 24 年（2012 年）7～10 月の第 1 土曜日開催）

○講座名 中島伸男の東近江「戦争と平和」ものがたり

○講師 中島 伸男 氏

○日時・内容

- | | | |
|------|-------------------------------------|----------|
| 1 回目 | 平成 24 年（2012 年）7 月 7 日 13:30～15:30 | |
| | 「荻田常三郎、東近江の空を飛ぶ」 | 受講者 68 名 |
| 2 回目 | 平成 24 年（2012 年）8 月 4 日 13:30～15:30 | |
| | 「日本で三番目の陸軍飛行場を誘致」 | 受講者 40 名 |
| 3 回目 | 平成 24 年（2012 年）9 月 1 日 13:30～15:30 | |
| | 「太平洋戦争と陸軍八日市飛行場、そして住民」 | 受講者 45 名 |
| 4 回目 | 平成 24 年（2012 年）10 月 6 日 13:30～15:30 | |
| | 「敗戦と陸軍飛行場―歴史を語り継ぐことの大切さ」 | 受講者 34 名 |

<第 2 期>（4 回連続講座・平成 25 年（2013 年）1～4 月の毎月第 2 土曜日）

○講座名 滋賀県の戦争遺跡

○講師 滋賀県戦争遺跡研究会 中井 均 氏（1 回目、4 回目）
辻川 哲朗 氏（2 回目）
橘 尚彦 氏（3 回目）

○日時・講師・内容

- | | | |
|------|-------------------------------------|----------|
| 1 回目 | 平成 25 年（2013 年）1 月 12 日 13:30～15:30 | |
| | 「戦争遺跡って何だろう？」 | 受講者 41 名 |

2回目	平成 25 年（2013 年）2 月 9 日	13:30～15:30	
	「滋賀県の戦争記念碑」		受講者 42 名
3回目	平成 25 年（2013 年）3 月 9 日	13:30～15:30	
	「大津・御幸山の西南戦争『記念碑』について」		受講者 19 名
4回目	平成 25 年（2013 年）4 月 13 日	13:30～15:30	
	「捕虜収容所と干拓事業」		受講者 33 名

(3) 館長講座「自分史づくり講座」

平成 24 年（2012 年）7 月から、毎月第 3 土曜日に「自分史づくり」をサポートする「自分史づくり講座」を開始した。開講から平成 24 年度末までの全 9 回に延べ 84 名の受講があった。

自分史とは、自分の記憶をたよりに、自分のことばで、自分の生きた時代の証言をつづることである。特に昭和の前半を生きた人は、その記憶を確かめつつ、それを次の世代に伝える義務があるとの考え方から、当館では引き続き「自分史づくり」をサポートしていく。



(4) 戦争遺跡見学フィールドワーク

<第 1 回>

- 日時 平成 24 年（2012 年）7 月 29 日 13:30～15:30
- 主な見学場所 掩体壕（東近江市）
 冲原神社（東近江市）
 - ①布引運動公園で、全体を俯瞰
 - ②コンクリート製掩体壕の見学
 - ③土製掩体壕の見学
 - ④冲原神社 境内にある陸軍八日市飛行場の営門の門柱の見学
- 講師 中島 伸男 氏（八日市郷土文化研究会会長）
- 参加者数 30 名

<第 2 回>

- 日時 平成 24 年（2012 年）8 月 12 日 10:00～12:00
- 主な見学場所 蒸気機関車避難壕（米原市）
- ガイド 藤本 伝一 氏（岩脇まちづくり委員会）
- 参加者数 35 名

(5)戦争体験者お話し会

<夏のお話し会>

- 【第1話】 平成24年(2012年)8月11日 10:00～12:00
語り部：大野 貞雄 さん (78歳)
内 容：小学生が見た戦争～満州国・興亜開拓団からの逃避行～
参加者：26名
- 【第2話】 平成24年(2012年)8月11日 13:00～15:00
語り部：小齊 伊佐雄 さん (81歳)
内 容：生涯で最も長かった夜～14歳で死を覚悟した、終戦の日の夜～
参加者：30名
- 【第3話】 平成24年(2012年)8月13日 10:00～12:00
語り部：熊谷 直孝 さん (89歳)
内 容：学徒出陣、そして敗戦のビルマ
～田中穂積早稲田大学総長の為め書き国旗など～
参加者：45名
- 【第4話】 平成24年(2012年)8月13日 13:00～15:00
語り部：田中 和男 さん (90歳)
内 容：中国湖南の戦争体験と靈感
参加者：29名
- 【第5話】 平成24年(2012年)8月15日 10:00～12:00
語り部：荒木 俊夫 さん (83歳)
内 容：終戦の詔勅放送のあと、本土決戦を覚悟
参加者：23名
- 【第6話】 平成24年(2012年)8月15日 13:00～15:00
語り部：佐藤 保 さん (88歳)
内 容：マーシャル諸島ミレー島で敵機と死闘を繰り返し、重傷を負う
受講者：43名

<秋のお話し会>

開催日：平成24年(2012年)11月14日
語り部：吉田 貞次 さん (89歳)
内 容：シベリア抑留体験について
参加者：30名

<開館1周年記念イベント「平和祈念のつどい」>

○平成25年(2013年)3月16日 10:30～12:00
語り部：北岸 正次 さん (90歳)

内 容：八日市・第8航空教育隊での思い出

参加者：69名

○平成25年（2013年）3月16日 13:00～14:30

語り部：樋口 良次 さん（80歳）

内 容：近江八幡への集団学童疎開

参加者：33名

(6) 学童保育所への夏季平和学習プログラム

滋賀県平和祈念館が開館して初めての夏休みに、連日、学童保育所に通所する多くの子どもたちが、当館で戦争と平和について学習するプログラムを提供した。

参加児童は1年生から6年生と幅広いため、午前中の平和学習では滋賀県民の戦争体験や実物資料についてクイズ形式で理解を深めるような内容にした。午後からは、ペットボトルあんどんの製作活動により子どもたちの平和への願いを表現することができた。夏休み期間中、子どもたちが製作したたくさんのあんどんにより、当館から「平和への思い」を発信することができた。

○実施期間：平成24年（2012年）7月25日～8月10日

○受け入れ団体：学童保育所 9団体（353名）

○内容：平和学習（職員による講座、アニメ上映、展示見学）、製作活動（ペットボトルあんどん）



あんどんに、子どもたちは平和への思いを描く。



あんどんは、8月15日イベントまで館内で展示

○ボランティアグループとの連携

昼休みに時間に交流：昔遊び（わらべうた、おもちゃなど）、戦時食体験、紙芝居



戦時食の試食体験



「わらべうた遊び」の伝承

(7) へいわの学校☆あかり

戦争体験者の体験や平和への思いを継承するために、学校の夏季休業期間中に持続的な学習プログラムを設定し、より深く滋賀県における戦争と平和について理解する児童の育成に取り組むために企画した。「へいわの学校☆あかり」は、当館が実施する夏休み限定の学校で、“あかり”には、戦争のあった事実を知り、夜間も自由にあかりがともせる平和な世の中を作っていきたいという願いを込めている。

今回は次年度に向けてのモデル事業としての位置づけで実施し、当館の近隣小学校およびホームページでのみ広報した。参加者は3名であった。

○募集期間 平成24年（2012年）7月2日～7月15日

○実施期間 平成24年（2012年）7月21日～8月25日

○告知方法 チラシ（東近江市内小学校4校）、ホームページ

○参加者数 3名

○内容

①開校式（7月21日）…館長あいさつ・自己紹介・展示見学・講座

②現地見学…東近江市の掩体壕、米原市の蒸気機関車避難壕

③ペットボトルあんどん作成

④体験者お話し会…3名の方のお話し会

⑤平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム

⑥学習のまとめ…これまでの学習についてのまとめ

⑦学習発表会・閉校式（8月25日）…学習発表、講評、修了証授与、記念撮影



(8) こども体験学校「平和のねがいをこめて、アロマキャンドルづくり」

本事業は、夏休み期間中の体験的な学習イベントとして、平成24年（2012年）8月5日にあいとう菜の花館との協働で実施した。参加者は児童34名とその保護者である。

○平和学習



○アロマキャンドルづくり（あいとうエコプラザ菜の花館）



(9) 平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム

本事業は、子どもから大人、幅広い世代の人々が「戦争と平和」について考え、自分にできるきっかけ作りをねらいとして平成24年（2012年）8月15日に実施した。当日は、開館時間を午後9時まで延長し、ジャズグループ「アングル・オールスターズ」による平和のあかりコンサートや展示説明会、夏季学習プログラムで製作したペットボトルあんどんの点灯、ボランティアグループによる戦時食体験や紙芝居など多様なプログラムを実施した。コンサートに50名近くの参加者があったほか、全体で約150名の参加があった。

夏休み特別開催
**平和のあかりコンサート
 & ナイトミュージアム**

滋賀県平和祈念館では、夏休み特別開催として、「平和のあかりコンサート」&「ナイトミュージアム」を開催いたします。また、屋外では平和への願いを込めて子どもたちが作ったペットボトルあんどんの点灯もあそびます。
 ご家族、ご友人と一緒に滋賀県平和祈念館へお越しください。

日時 8月15日(水)18:00~20:30

スケジュール

18:00 受付 紙芝居や戦時食体験
 18:30 平和のあかりコンサート
 出演バンド：アングル・オールスターズ
 上原 真 (ボーカル)
 鈴木 雅弘 (ギター)
 高田 浩吉 (ベース)
 19:30 展示見学(説明を行います。)
 20:00 「平和のあかり」点灯(屋外にて)
 20:30 閉館

参加費 無料 **定員** 50名

申し込み方法
 下記申込用紙に必要事項をご記入の上、滋賀県平和祈念館へ直接申し込みください。FAXもしくはE-Mailでも申し込み可能です。

アングル・オールスターズ
 京都・滋賀を中心に、Jazzやポップスハウスセッションで活動しているアマチュアバンドです。スタンダードジャズを中心におなじみの曲も演奏いたします。

ゲストヴォーカル
 ユウキ

お問い合わせ・申し込み先
 滋賀県平和祈念館
 TEL 0749-46-0300
 FAX 0749-46-0350
 E-Mail: hwaipref.shiga.jp.jp

〒520-8593
 「平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム」申込書

代表者お名前() 参加人数(大人 人 子ども 人)

住 所()

電話番号()

イベント開催のチラシ



(10) 平和を願う子どもピースメッセージ コンクール

次世代を担う子どもたちが、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子どもたちが描く絵画を通して、広く県民に平和への思いを伝えることを目的として実施した。今回、県内の小学校5年生から中学生を対象に作品を募集したところ、13市町20校から383点の作品応募があった。

応募のあった中から、小学校、中学校ごとに優秀作品を3点ずつ選定し、表彰するとともに、すべての応募作品を館内に展示した。

○展示期間 平成24年（2012年）11月1日～12月2日

○表彰式 平成24年（2012年）11月3日

○入賞者

小学校の部	ピース賞	甲賀市立綾野小学校	第6学年	大岡	昂永さん
	ハート賞	米原市立大原小学校	第6学年	杉山	龍太さん
	オリーブ賞	野洲市立祇王小学校	第6学年	中島	光基さん
中学校の部	ピース賞	私立立命館守山中学校	第2学年	樋上	真子さん
	ハート賞	東近江市立玉園中学校	第3学年	吉崎	彩夏さん
	オリーブ賞	私立立命館守山中学校	第2学年	遠藤	伊吹さん



平成25年(2013年)3月16日、17日、20日の3日間にわたって、開館1周年記念イベント「平和祈念のつどい」を開催した。本イベントでは、戦争体験者のお話会をはじめ、紙芝居による戦争体験のお話や戦中・戦後に流行した歌を歌ったり、蓄音機で流したりした。また、ボランティアの協力のもと、来館者に戦時食を提供するなど、幅広い年齢層に来てもらえるプログラムを実施し、3日間で延べ615人の来館者があった。

・映画「結魂」上映会（参加者：151名）

道真賢平和祈念の会（開創1周年記念イベント）**平和祈念のつどい**

道真賢平和祈念会が開創して、1年が経ちました。これまでに4万人以上の方にご利用いただきました。
このため、開創1周年を記念して3月16日(土)・17日(日)・20日(水・祝)の3日間、様々なイ
ベントを開催します。みなさま是非ご参加ください。

3月16日(土)

戦争体験者のお話し ～戦争中の体験から平和を考えよう～

会場：1階 地域交流室

10時30分～12時

講師：**北原 正次さん(90歳)**

「八白古・第8戦中実弾着弾の思い出」

戦隊長経験者として各地に転戦し

13時～14時30分

講師：**樋口 良次さん(80歳)**

「近江八幡への最前線参謀、大坂大空襲、そして6年後の卒業式」

3月17日(日)

紙芝居『満洲は証人』

参加無料

～語りつぐ 平野喜三さんの戦争体験～

11時～12時

旅・戦争と日本史は、1940年、20歳で満洲へ赴きま
うけたことがきっかけの4年8ヵ月。異郷、シベリア
を経て、1946年8月の引揚げまで、とても過酷な
体験をしました。
その平野さんの体験を、
まちにおよぶ紙芝居で
語りつぎます。

講師：まーおばちゃん

会場：1階 地域交流室

3月20日(水・祝) 10時～12時

市民共済市場商店会主催記
平和と環境・エネルギーを考える集い

講師 NPO法人地球市民ネットワーク事務局 代表員 松本 都民 氏

会場：2階 研修室

定員：40名

申込先 八日市地区公民館 TEL 07-46-72-0186 参加無料

お問い合わせ・お申し込み先

道真賢平和祈念会

〒527-0157 道真賢地区社会福祉センター431室
TEL 07-48-46-0300 FAX 07-48-46-0350
Eメール tsumagaki@npo.or.jp

くわしくは
ホームページ しんげんバーチャルミュージアム.comをご覧ください。

3月16日(土)～17日(日)

紙芝居で、思い出さぬ歌・なつかしい歌を聴こう

10時～14時

演奏 渡辺 政幸さん
朗読 関根あけみ(道真賢平和祈念会)
司会 藤田美津子(道真賢平和祈念会)

すいとんを食べるで、「食」から平和を考えよう

11時50分～12時30分

会場：2階 チェラー

食事10食・無料

～親子でやってみよう～

(国語科指導用活動型ボランティアの会 提供)
オリジナルパズルづくり

会場費 10円、食料代別注

3月16日(土) 17日(日)
20日(水・祝)
各日10時～

わたしがしづりにチャレンジ

参加無料 食料代別注

3月16日(土)・17日(日) 各日10時～

講師 山崎 洋子
講演テーマ「生誕地300年〜1ヶ月後」
／舟木めぐみ「舟木めぐみ先生との対談」
／石井 浩一「道真賢平和祈念会とは何か?」
／石井 浩一(特別ゲスト)

アクセス

東武池袋線「八日市」駅から徒歩約10分
近江鉄道「八日市駅」徒歩約5分
近江バス「八日市駅前」徒歩約5分
近江バス「八日市駅前」徒歩約5分
近江バス「八日市駅前」徒歩約5分

Copyright © 2014 Tsumagaki Peace Memorial Association All Rights Reserved.



戦争体験者お話し会（北岸正次さん）



戦争体験者お話し会（樋口良次さん）



まーおぼちゃんの紙芝居



蓄音機による懐かしの音楽メロディー演奏



ボランティアによる戦時食「すいとん」の提供



映画「結魂」上映会

(12) その他一般向けの普及啓発事業

○まーおばちゃんの紙芝居「満州は証人～語りつぐ 平野喜三さんの戦争体験～」の上演

本事業は、まーおばちゃんが大津市の故・平野喜三さんから聞き取った話を紙芝居で紹介するもので、平成 24 年（2012 年）11 月および平成 25 年（2013 年）3 月に開催した。

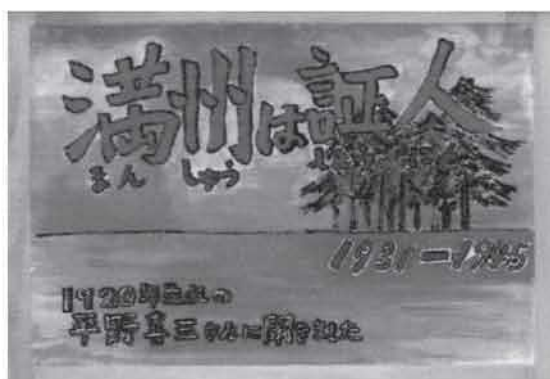
内容は、平野さんの満州出征・シベリア抑留体験で、徴兵・召集を受けてから満州国での 4 年 8 か月、そして敗戦後、シベリア抑留を経て、昭和 21 年（1946 年）8 月の引揚げまでの過酷な体験を語りつぐものである。参加者は、延べ 127 名であった。

<11 月開催分>

- ・開催日：平成 24 年（2012 年）11 月 23 日
- ・参加者：32 名

<3 月開催分>（前掲）

- ・開催日：平成 25 年（2013 年）3 月 17 日
- ・参加者：95 名



紙芝居「満州は証人」



紙芝居上演の様子

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習の支援

○来館学校数 実績（※県内学校のみ）

区分	総数	小学校	中学校	高等学校	大学等
学校数	54 校	42 校	7 校	4 校	1 校
児童・生徒数	2,348 人	2,004 人	216 人	107 人	21 人

○主な方法

- ・ 展示見学
（学校が作成するワークシートによる調べ学習）
- ・ 館の職員によるミニ講座
- ・ 戦争体験者によるお話会
- ・ 戦時食体験



展示見学



資料観察

○実践校からの感想や意見（抜粋）

<児童生徒の感想>

- ・ 戦争について実物にふれ、スクリーンの映像や講師の人の話を聞いて兵士になった男の人、その家族も数えきれないほどの悲しみやむなしさをかかえていたんだなあ…と思うと、とってもつらい気持ちになりました。
- ・ 広島や長崎のことは教科書にのって知っていたけど、自分の住んでいる滋賀県のことは知らなかったの、よい経験になった。二度と起こってはいけない戦争のことを次は自分たちが語りついでいけたらいいと思います。
- ・ 実際に戦争を経験している人の話をまとめたビデオを見て、戦争がどれだけ怖くて、人を悲しい気持ちにするのかということを学びました。

<教員の意見>

- ・ 平和へのおもいを深めていくためには、より感性に訴えたり、人々の想いや願いにふれたりすることが必要である。そのためには、五感を通しての学びの場が必要である。この祈念館は、それに適していると思われる。
- ・ 滋賀県平和祈念館で自分のふるさとでの平和学習ができた事は、戦争というものをより身近に感じ、効果的な学習ができたのではないかと考えています。

(2) 出前授業

○出前授業実施校 実績

区分	総数	小学校	中学校	高等学校	大学等
学校数	46 校	24 校	19 校	3 校	0 校
児童・生徒数	5,363 人	1,677 人	2,989 人	697 人	0 人

○主な方法

- ・実物や写真・動画の提示
- ・体験談の紹介
- ・資料観察



実物にふれる活動



資料の提示

○実践校からの感想や意見（抜粋）

<児童生徒の感想>

- ・実物などを見せてもらって、その時起こったことがよく分かりました。私たちの近くでも爆弾が落とされた事もよく分かりました。おばあさんの話で飛行機が飛んでいても慣れたという話を聞いて、本当にびっくりしました。それだけたくさんの飛行機が飛んでいたりしたんだなと思いました。やっぱり戦争はこわいです。
- ・今回実物に触れて、そのものに込められた思いなどを心から感じる事ができました。この学習で知ったことをもっと詳しく調べ、多くのことを知りたいです。
- ・講師の方の話を聞いて、戦争に対する恐怖心が強くなりました。平和が当たり前と思うのではなく、現在の平和は過去の戦争などの苦しみや痛みからできた私の祖先たちが残してくれたかけがえのない宝物と思うことが大事だと感じました。

<教員の意見>

- ・今日、講師の先生の話をお聞きしましたが、とても関心をもったように感じました。教室へ帰り、昼休みに数名の子が話をしにきて考え合いました。特に、映像でのお話に心動かされた子が多かったように思います。今日の内容は、自分たちの住む滋賀県、又近くの市で実際にあったことで説明いただいたので、心に感じるものが大きかったと思います。
- ・子どもたちの身近な、さらに興味を引くような実物に触れることができ、平和学習の導入へと入ることができた。

(3) 資料貸出

滋賀県平和祈念館では、学校や地域への平和学習を支援するためにハンズオン資料やパネルの貸出を行っている。平成 24 年度には、新しくパネルCセット＜滋賀で学ぶ戦争の記録＞と小学校での授業で活用をねらいとしたハンズオン資料および写真パネルを組み合わせた「ひとつのはなセット」を作成した。

○ハンズオン資料…千人針、臨時召集令状（複製）、出征たすき、防空頭巾、配給切符、慰問袋、鉄かぶと、ゲートル、国防婦人会たすき、いなど探り袋、雑誌「週刊少国民」（ラミネート版）、カルタ「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）、双六「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）

○パネル…Aセット（16 枚組）

Bセット（20 枚組）

Cセット（16 枚組）＜滋賀で学ぶ戦争の記録＞

写真・ポスター類（64 枚）

○ひとつのはなセット

○視聴覚資料…滋賀県民の戦争体験証言ビデオ「記憶の湖（うみ）」

その他、戦争や平和に関するビデオ・DVDなどがある。

授業で使える

「ひとつのはな」資料セット

滋賀県平和祈念館の「貸し出し資料セット」の紹介です。

① 写真パネル3枚
② ぎつう
③ 軍帽
④ 鉄かぶと
⑤ 軍服
⑥ 召集令状（複製）

このセットは、国語科「一つの花」等の授業で活用できるように組みました。

【「ひとつのはなセット」資料説明】

- ① 写真（A3サイズ・裏面マグネット付）…出征風景・機銃弾・米軍の航空機（空襲）
- ② ぎつう…出征時、待参する親御向け
- ③ 軍帽…出征時、かぶる帽子（陸軍）
- ④ 鉄かぶと…戦地で兵士がかぶるもの（陸軍）
- ⑤ 軍服…兵士が着用したもの
- ⑥ 召集令状（複製）…通称、「赤紙」と呼ばれていた

23cm×42cm×64cmのケースに入れてお貸しします。

貸し出し方法

- ・資料の多くは当時使用されていた実物です。取り扱いには十分留意してください。
- ・貸し出し期間は原則1週間です。
- ・利用日時を利用したい10日前までにご連絡ください。
- ・利用にあたっては、借用申請書をご提出していただきます。
- ・貸し出し費用は無料です。

☆その他にも、祈念館には授業で使える貸し出し資料セットがあります。お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ 滋賀県平和祈念館

TEL 0749 46 0300 FAX 0749 46 0350
E-mail: heiwa@pref.shiga.jp

詳しくはホームページ「しがけんバーチャル平和祈念館」をご覧ください。

しがけんバーチャル平和祈念館 検索

平成 24 年度 貸出実績

○学校への貸出 23 校

内訳

小学校 18 校

中学校 1 校

高等学校 4 校

対象児童生徒数 2,312 人

○地域への貸出 22 件

学校への貸出は、授業で活用するためのハンズオン資料や視聴覚映像（体験談やアニメ）の要望が多い。

滋賀県民の戦争体験をまとめたパネルは、主にパネルAおよびBセットである。地域からの貸出の要望は、夏に集中する傾向がある。

(4) 滋賀県平和祈念館 活用の手引き・実践事例集の発行

①『活用の手引き』作成委員会 名簿

委員長	清水 弘孝	大津市立南郷小学校
委員	白 寄 治	近江八幡市立武佐小学校
	前川 啓史	東近江市立能登川西小学校
	折木 公美	守山市立守山中学校
	高橋 義昭	滋賀県立八日市高等学校
	神部 直	滋賀県教育委員会
	城 敬	滋賀県教育委員会
	玉井 正	滋賀県教育委員会
事務局	田中 慶希	滋賀県平和祈念館
	林 耕平	滋賀県平和祈念館

※所属は、平成 25 年（2013 年）3 月現在

②『実践事例集』作成にあたっての協力校および協力教育委員会

米原市立大原小学校	・ 湖南市立菩提寺北小学校
甲賀市立信楽中学校	・ 草津市立松原中学校
米原市立大東中学校	・ 湖南市立石部中学校
滋賀県立大津清陵高等学校	・ 滋賀県立北大津高等学校
日野町教育委員会	

③主な内容

○『活用の手引き』

- ・ 研究授業（小学校 第 6 学年 社会科） 「アジア・太平洋に広がる戦争」
- ・ 『もっと知りたい 滋賀で学ぶ戦争の記録』を活用した授業の指導案
（小学校・中学校・高等学校）

○『実践事例集』

- ・ 滋賀県平和祈念館に来館しての学習
- ・ 滋賀県平和祈念館の職員が学校に出向いて行う学習
- ・ P T A 研修 ・ 教職員研修

○活用資料編

- ・ 館内調べ学習ワークシート例 ・ 国語科での活用について
- ・ コラボでピース（他施設と組み合わせる校外学習）

5 ボランティア活動支援事業

当館では、平成 23 年度から当館の活動に参加いただけるボランティアの募集を開始した。平成 24 年度においては、新たにボランティアの申込があった方を対象とした「ボランティア登録講座」を 3 回開催（4 月、7 月、10 月）し、平成 24 年度末現在におけるボランティア登録者数は 60 名となっている。年齢層は、20 代から 80 代の幅広い世代の方に登録いただいております、それぞれ語り部・語り継ぎ部活動グループ、施設案内活動グループ、戦時食体験活動グループなど 9 つのグループで活動が進められている。また、ボランティア同士の情報共有・情報交換のツールとして、情報紙「平和の灯」が制作されており、開館から月 1 回のペースで発行されている。

ボランティアグループには、こうした活動を通じて、当館の利用者との交流を図り、さらには、利用者と館とをつなぐ役割を担っていただくことが期待される。当館では引き続き、ボランティアの募集を行うとともに、その活動の支援を行っていく。

○ボランティア活動グループの紹介

語り部、語り継ぎ部 活動グループ	自らの体験や家族や体験者の方々から聞いた話をもとに、戦争体験を語り継いでいく活動をします。
施設案内活動グループ	館内での来館者との交流や施設案内をします。
戦時食体験活動グループ	食べるものがなかった戦争末期から戦後の生活苦を感じ、「食」の大切さについて考えます。
絵本・紙芝居読み聞かせ 活動グループ	平和や戦争をテーマにした絵本や紙芝居の読み聞かせをする活動をします。
手紙等解読グループ	戦争中の手紙や日記などを、読みやすいように解読する作業をします。
地域調査グループ	県内の戦争遺跡（掩体壕、列車壕など）のフィールドワークなどをします。
戦争体験聞き取り調査 グループ	館職員とともに、戦争体験者の方からお話を聞き、記録する活動をします。
昔遊び活動グループ	子どもたちに昔の遊びを伝える活動をします。



ボランティア情報紙「平和の灯」創刊号（平成24年4月5日発行）



滋賀県平和祈念館ボランティア



戦時食活動グループの活動の様子



手紙等解説グループの活動の様子



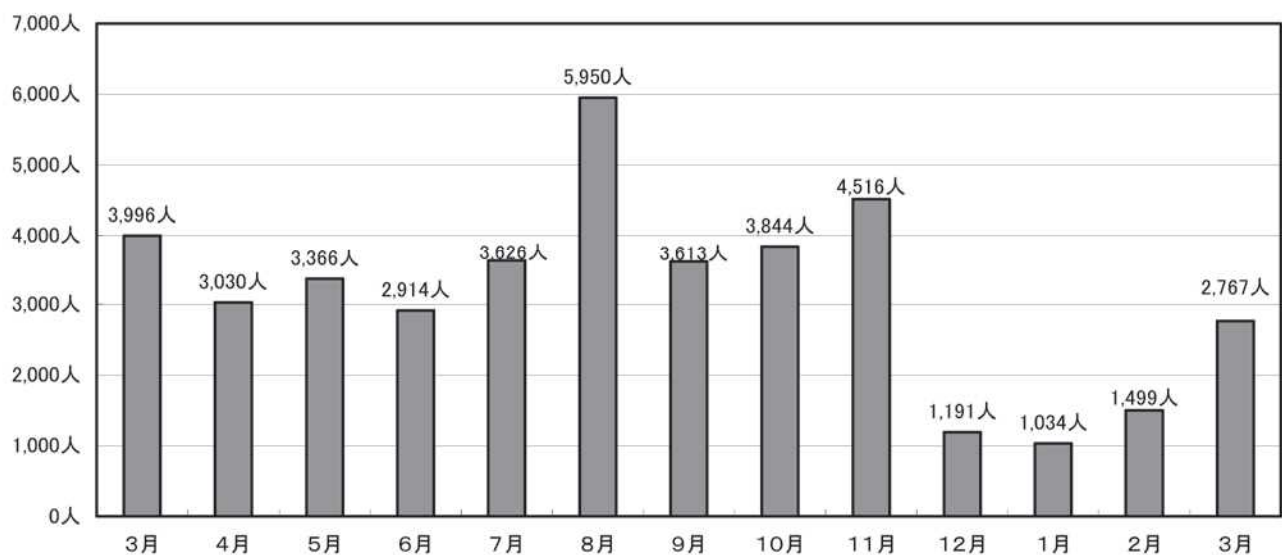
絵本・紙芝居読み聞かせ活動グループの活動の様子

Ⅱ 資料

1 利用状況

(1) 月別来館者数

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	12日	22日	22日	22日	20日	31日	21日	22日	22日	16日	20日	21日	23日	274日
来館者数	3,996人	3,030人	3,366人	2,914人	3,626人	5,950人	3,613人	3,844人	4,516人	1,191人	1,034人	1,499人	2,767人	41,346人
1日あたりの 平均来館者数	333人	138人	153人	132人	181人	192人	172人	175人	205人	74人	52人	71人	120人	151人



(2) 来館学校一覧

月	日	来 館 学 校 名	人数
5	10	東近江市立愛東南小学校	29人
	16	【県外】兵庫県神戸市立王塚台中学校	25人
	17	東近江市立愛東中学校	47人
	25	【県外】神奈川県横須賀市立田浦中学校	10人
	30	滋賀県立大学	21人
6	8	東近江市立市原小学校	4人
	22	東近江市立八日市南小学校	80人
	23	滋賀県立大津清陵高等学校	28人
7	11	米原市立大原小学校	88人
8	2	滋賀県立聾話学校小学部	5人
	5	滋賀県立愛知高等学校	23人
9	17	滋賀県立東大津高等学校	4人
	20	東近江市立布引小学校	55人
	21	彦根市立若葉小学校	55人
	28	東近江市立御園小学校	72人
10	2	彦根市立稲枝東小学校	83人
	3	甲賀市立信楽中学校	35人
	11	東近江市立八日市西小学校	43人
	15	多賀町立大滝小学校	14人
	18	甲賀市立山内小学校	7人
		甲賀市立鮎河小学校	4人
	30	竜王町立竜王小学校	79人
11	1	東近江市立八日市北小学校	61人
	2	愛荘町立秦荘西小学校	38人
	7	東近江市立船岡中学校	84人
	8	東近江市立五個荘小学校	143人
	9	東近江市立蒲生北小学校	60人
		米原市立坂田小学校	93人
	14	東近江市立愛東北小学校	26人
		東近江市立五個荘中学校	17人
	15	東近江市立箕作小学校	89人
		東近江市立湖東第三小学校	36人
	16	東近江市立蒲生西小学校	60人
		東近江市立湖東第一小学校	34人
	21	東近江市立能登川北小学校	5人
	22	東近江市立能登川東小学校	66人
		東近江市立湖東第二小学校	29人
	26	豊郷町立豊郷小学校	46人
	27	高島市立新旭北小学校	52人
	28	東近江市立玉緒小学校	49人
	29	東近江市立能登川南小学校	127人
		東近江市立蒲生東小学校	29人
	30	東近江市立能登川西小学校	50人
		東近江市立山上小学校	44人
12	5	野洲市立祇王小学校	31人
	7	【県外】三重県いなべ市立西藤原小学校	18人
	10	野洲市立祇王小学校	31人

月	日	来 館 学 校 名	人数
	12	野洲市立祇王小学校	31人
	20	甲賀市立伴谷東小学校	74人
平25 1	10	東近江市立愛東南小学校	25人
	25	東近江市立愛東北小学校	26人
2	5	彦根市立稲枝中学校	11人
	7	近江八幡市立沖島小学校	5人
	14	私立近江兄弟社高等学校	52人
	21	滋賀県立草津養護学校中学部	12人
3	7	東近江市立聖徳中学校	10人
		東近江市立愛東北小学校	26人

57校 2,401人

(うち3校 53人は県外の学校)

(3) 出前授業実施団体

月	日	学 校 名	人数
4	19	米原市立柏原中学校	28人
	26	滋賀県立河瀬中学校	80人
5	16	湖南省立岩根小学校	49人
	22	愛荘町立秦荘中学校	92人
6	6	滋賀県立北大津高等学校	180人
7	5	草津市立松原中学校	150人
	6	東近江市立八日市西小学校	43人
		湖南省立石部南小学校	75人
	12	栗東市立大宝東小学校	103人
	17	東近江市立湖東中学校	79人
8	21	滋賀県立豊話学校小学部	16人
	23	滋賀県立豊話学校中学部	20人
	30	長浜市立富永小学校	12人
9	29	米原市立大東中学校	332人
10	2	東近江市立湖東中学校	295人
	3	東近江市立朝桜中学校	666人
	4	近江八幡市立馬淵小学校	49人
	5	大津市立南郷小学校	100人
		東近江市立聖徳中学校	134人
	6	東近江市立永源寺中学校	294人
	12	草津市立草津第二小学校	120人
	16	草津市立笠縫小学校	89人
	19	大津市立平野小学校	177人
	25	甲賀市立伴谷小学校	78人
11	29	東近江市立船岡中学校	84人
	6	湖南省立菩提寺北小学校	56人
	7	滋賀県立東大津高等学校	397人
	19	愛荘町立愛知川小学校	89人
	20	守山市立守山北中学校	130人
	21	彦根市立稲枝北小学校	22人
	29	多賀町立多賀小学校	50人
12	30	東近江市立八日市南小学校	160人
	6	東近江市立愛東北小学校	26人
	7	日野町立桜谷小学校	26人
	13	日野町立西大路小学校	54人
	14	近江八幡市立八幡小学校	131人
平25	18	愛荘町立愛知中学校	152人
	30	滋賀県立甲南高等学校	120人
1	31	日野町立日野小学校	87人
2	1	愛荘町立愛知中学校	151人
	12	竜王町立竜王中学校	107人
	15	米原市立息長小学校	25人
	20	米原市立息長小学校	40人
		豊郷町立豊日中学校	50人
	27	豊郷町立豊日中学校	50人
3	8	彦根市立彦根西中学校	95人

46校 5,363人

2 広報活動

新聞等報道記録（平成24年1月1日～平成25年3月31日）

月	日	内 容	報道機関
平24	1	1 平和祈念館が3月に開館	滋賀報知新聞
	6	「平和祈念館」に100万円寄付 県遺族会顧問山田さんが設置委へ 県平和祈念館の運営に役立てて	読売新聞 中日新聞
	2	8 平和祈念館3月開館 県平和祈念館来月17日開館 9 来月17日県平和祈念館開館 14 3・11から1年目の県平和祈念館開館の意義 21 開館に間に合わなくなった平和祈念館の太陽光発電	中日新聞 京都新聞 毎日新聞 滋賀報知新聞 滋賀報知新聞
	3	滋賀県平和祈念館オープン 9 「県平和祈念館」完成で内覧会 県平和祈念館開館控え公開 平和祈念館17日開館 10 語りつぐ平和へのねがい～滋賀県平和祈念館～ 平和祈念館整備で県に1172万円寄付 平和祈念館へ遺族ら1173万円寄付 平和祈念館開設へ県に1172万円寄付 滋賀県平和祈念館って？ 13 県平和祈念館開館を機に掩体壕などの保存を急げ まちかど掲示板 県平和祈念館開館記念イベント 14 滋賀県平和祈念館完成！ 16 滋賀県平和祈念館 あす午後2時、オープン 滋賀県平和祈念館開館 上 平和祈念館開館記念切符を販売 17 おうみ発610 滋賀県平和祈念館が開館 知事「戦争を語り継ぐ」平和祈念館きょう開館 滋賀・東近江市 滋賀県平和祈念館開館 下 18 県祈念館が開館 凡語 戦時中の生活伝える平和祈念館がオープン 東近江 県平和祈念館が開館 県平和祈念館オープン 「平和の燈」点火 祈念館が開館 平和祈念館待望の開館 19 平和の尊さ学んで 沖縄三線など披露 20 開館記念切符31日まで発売 23 平和学習の拠点 滋賀県平和祈念館・開館	びわ湖放送 中日新聞 読売新聞 京都新聞 びわ湖放送 中日新聞 朝日新聞 京都新聞 毎日新聞 滋賀報知新聞 読売しが県民情報 近江タイムス 滋賀報知新聞 京都新聞 京都新聞 NHK大津 産経新聞 京都新聞 京都新聞 京都新聞 産経新聞 中日新聞 毎日新聞 読売新聞 朝日新聞 中日新聞 滋賀報知新聞 滋賀報知写真新聞
	4	22 平和の思い大風にな ボランティアグループ24人 2畳敷2枚完成 24 戦争との距離 ミ風「非戦の誓い」を平和祈念館に	中日新聞 京都新聞 滋賀報知新聞
	5	特集 平和と人権 12 平和の尊さ、語り継ぐ 21 千玄室さん平和を語る 特攻隊員の経験 千玄室さん語る	じんけん通信 リビング滋賀 京都新聞 朝日新聞
	6	26 「平和学習講座」スタート 29 戦中の飛行場学ぶ	滋賀報知新聞 朝日新聞
	7	1 八日市飛行場の資料募集 11 自分史づくり講座受講者募集 12 短信 「へいわの学校・あかり」 13 戦争体験「お話し」県平和祈念館来月6人語る 19 田んぼに図柄くつきり 県平和祈念館をPR 24 戦時中へ…思い馳せては 3月に開館 初めての夏 25 県平和祈念館PR長浜でパネル展	滋賀報知新聞 滋賀報知新聞 滋賀報知新聞 朝日新聞 中日新聞 毎日新聞 中日新聞

月	日	内 容	報道機関
	26	戦中家族に宛てた思い 企画展「家族の絆―県民の戦場」	読売新聞
	30	空襲の怖さひしひし 掩体壕フィールドワーク	京都新聞
	31	甲良養護学校の生徒が育てた花を平和祈念館に寄贈	中日新聞
8	1	“戦争”肌で感じて 県立図書館で企画展	中日新聞
	3	兵士と家族 戦時も絆 手紙や遺品500点展示	京都新聞
		平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム 広告	報知写真新聞
	5	平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム参加者募集	滋賀報知新聞
		昔の魚とりを体験しよう 参加者募集	滋賀民報
	7	戦争資料残し平和学習 林耕平さん	読売しが県民情報
		平和祈念館に癒しの花 甲良養護学校生が贈る	毎日新聞
		11日から6人の体験談 告知。昔の魚とり体験 告知。	滋賀報知新聞
	8	「音楽わいど ラジオ・ビュー」	KBS滋賀
	9	戦争体験者の話が聞ける貴重なチャンス	毎日新聞
	10	戦地の手紙 家族の絆 東近江 県平和祈念館で企画展	中日新聞
		平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	東近江ケーブルネットワーク
		平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	滋賀報知新聞
	12	平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	滋賀民報
		県平和祈念館学芸員 北村美香さん 開館初の夏企画に全力	滋賀民報
		県平和祈念館でお話会 大野貞雄さん	京都新聞
		「物」語る戦争 県平和祈念館 調査・収蔵品から 上 「銃弾」佐藤保さん	京都新聞
	13	「音楽わいど ラジオ・ビュー」	KBS滋賀
		「物」語る戦争 県平和祈念館 調査・収蔵品から 中 野村衣子さん	京都新聞
	14	「物」語る戦争 県平和祈念館 調査・収蔵品から 下 北島敬三さん	京都新聞
		戦争物語り 上 母の命を奪った機銃弾 北川庄治さん	朝日新聞
		八日市飛行場関連資料求む	滋賀報知新聞
	15	戦争体験者お話会	東近江ケーブルネットワーク
		県平和祈念館で企画展	産経新聞
		戦争物語り 中 「満州勤労奉仕隊の日記」 米原市・神戸幸子さん	朝日新聞
	16	平和のあかり 650個 県祈念館ナイトミュージアム	毎日新聞
		平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	東近江ケーブルネットワーク
		笑顔の世界 照らすあかり 平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	読売新聞
		戦争物語り 下 覚悟の日の丸ため書き 熊谷直孝さん	朝日新聞
		「平和のあかり」650個 平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	毎日新聞
		灯に込めた平和の願い 平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	京都新聞
	17	手紙が語る兵士と家族の絆	滋賀報知写真新聞
		世界平和の灯 浮かぶ 平和のあかりコンサート&ナイトミュージアム	中日新聞
	20	滋賀県平和祈念館学芸員 北村美香さん	産経新聞
	22	あさいち 「戦争ってなに？」	NHK総合
	24	戦中の物品40点並ぶ 大津	京都新聞
9	2	八日市飛行場資料募る	京都新聞
	7	ピースメッセージ募集中	滋賀報知新聞
	8	ピースメッセージ 平和祈念館が募集	滋賀報知新聞
	22	人権文化の花咲くまちへ	滋賀報知新聞
	23	企画展「八日市飛行場―戦前そして戦後―」	湖国とりびゆぬ
	25	平和祈念館 ボランティア募る	読売新聞
	30	八日市飛行場の歴史たどる	京都新聞
10	4	「八日市飛行場」が語る戦争	毎日新聞
	10	特攻隊員の軍服と飛行帽	産経新聞
		湖国街かどウォッチング 滋賀県平和祈念館	季刊夢けんせつ秋号
	12	ボランティアを募集	滋賀報知新聞
		「心象沖野開拓絵図」絵解き会の案内	読売新聞
		「翳風号を甦らせる会」による展示説明会の案内	毎日新聞

月	日	内 容	報道機関
	14	ボランティアを募集	滋賀報知新聞
	21	飛行場があった街 27日に説明会も	滋賀報知新聞
	26	地域交流展示案内	読売新聞
	29	平和祈念館秋季企画展	湖国とりびゅめ
11	9	絵画に込めた平和の願い 小・中学生の383点	滋賀報知新聞
	20	ぶら〜りまち歩き	滋賀報知新聞
	21	かるたに描くシベリア抑留	読売新聞
	22	平和への思い表現	中日新聞
		抑留体験かるたに描く	京都新聞
12	7	母奪った戦争語る	京都新聞
		秋季企画展の案内	読売新聞
	13	23日から臨時休館	京都新聞
		祈念館の屋根で太陽光	毎日新聞
	14	紙芝居読み聞かせ会	滋賀報知新聞
		平和祈念館の屋根に設置	滋賀報知新聞
		手作り紙芝居の読み聞かせ会	朝日新聞
		戦争の現実紙芝居に	京都新聞
		手作り紙芝居の読み聞かせ会	読売新聞
		滋賀県平和祈念館ボランティア	じゅげむ
	15	冬に行きたい滋賀の博物館	Duet
	21	県平和祈念館に太陽光発電	中日新聞
		県平和祈念館に太陽光発電	滋賀報知新聞
平25 1	6	『平和学習講座』開講	滋賀報知新聞
	10	『八日市飛行場』を語る 19日湖灯塾 北村美香さん講演	京都新聞
	12	平和祈念館で企画展 戦時体験を語る 思いや願いを次世代に 今日展示説明会	滋賀報知新聞
	18	思いや願いを次世代に 戦時体験語る 平和祈念館で企画展	滋賀報知新聞
		京都新聞湖灯塾『八日市飛行場〜飛行場があった街』 北村美香さん講演	京都新聞
	19	戦争の記憶次世代へ 東近江で企画展 55人の体験紹介	京都新聞
	20	八日市飛行場を紹介学芸員の北村さん 『戦争に翻弄』 湖灯塾	京都新聞
2	1	東近江市SUNプロジェクト事業説明会	滋賀報知新聞
	3	平和祈念館 企画展 戦争体験の記憶語り継ぐ	滋賀民報
	21	戦争証言ビデオ化 東大津高校放送部 東近江で公開	朝日新聞
3	2	滋賀県平和祈念館 子ども学習成果展 7日には愛東北小が発表	滋賀報知新聞
	8	・滋賀県平和祈念館 開館1周年記念イベント 平和祈念のつどい 告知	東近江ケーブルネットワーク
		・子ども学習成果発表	読売しが県民情報
		戦争体験者のお話会〜戦争中の体験から平和を考えよう〜	中日新聞
	9	尊い平和と悲惨な戦争 東近江 愛東北小児童が発表	中日新聞
		戦争の苦しみ知って 彦根 西中で林さん呼び掛け	近江同盟新聞
	11	彦根空襲の様子など説明 西中で戦争体験聞く平和学習	滋賀報知新聞
	15	平和祈念のつどい 16・17・20日 平和祈念館 開館1周年を記念して	読売新聞
		平和祈念館 開館1周年記念イベント 平和祈念のつどい	中日新聞
	18	戦争体験 紙芝居で 東近江 平和祈念のつどい	京都新聞
		平和伝え1年 利用4万人 東近江・県祈念館 目標の1.4倍、団体多く	産経新聞
		県平和祈念館1周年でイベント 蓄音機の演奏会やすいとん試食会	毎日新聞
		県平和祈念館1周年つどい 戦争体験 紙芝居で	

3 組織（平成25年3月現在）

(1) 職員

館長	端 信行
副館長	北川 光明
副主幹	名倉 康夫
主査	浅岡 勝義
主査	田中 慶希
主任主事	林 耕平
学芸員	北村 美香
嘱託員	坂井 秀男
嘱託員	日高 昭子
臨時的任用職員	花本 郁子
臨時的任用職員	諏訪 洋子
臨時的任用職員	杉林 真樹子

(2) 職員構成

区分	館長	行政職	研究職	教育職	嘱託・臨職	合計
人数	1	3	1	2	5	12

(3) 滋賀県平和祈念館運営会議

座長	端 信行（滋賀県平和祈念館長）
委員	中島 伸男（びわこ学院大学 非常勤講師 八日市郷土文化研究会 会長）
	中井 均（滋賀県立大学 准教授）
	松井 尚之（一般財団法人滋賀県遺族会 会長）
	村山 邦博（愛東地区まちづくり協議会 事務局長 愛東コミュニティセンター 館長）
	増田 隆（NPO 法人愛のまちエコ倶楽部 事務局長 あいとうエコプラザ菜の花館 館長）
	吉澤 浩明（東近江市企画部企画課 課長）
	畑 重三（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 会長）
	中澤 光子（滋賀県平和祈念館ボランティアの会）

(4) 滋賀県平和祈念館展示等監修委員

委員	原田 敬一（佛教大学 教授）
	原山 浩介（国立歴史民俗博物館 准教授）

4 決算（平成24年度）

○歳入状況

（単位：円）

科 目	決 算 額
基 金 繰 入 金	32,489,898
諸 収 入	1,788,571
合 計	34,278,469

○歳出状況

（単位：円）

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管 理 運 営 費	施設維持管理費、施設運営費、事務費、広報費	26,988,363
展 示 事 業	企画展示、地域巡回展示、他館との交流展示	3,515,350
資 料 収 集 保 存 事 業	収蔵資料防虫防かび対策、研究図書購入、 収蔵資料等デジタルデータ管理・公開システムの運用	2,427,263
普 及 啓 発 事 業	平和学習講座、平和学習支援、平和祈念講演会	1,347,493
合 計		34,278,469

5 施設概要

○所在地 滋賀県東近江市下中野町 431 番地

○建物概要

構 造 鉄筋コンクリート 2階建

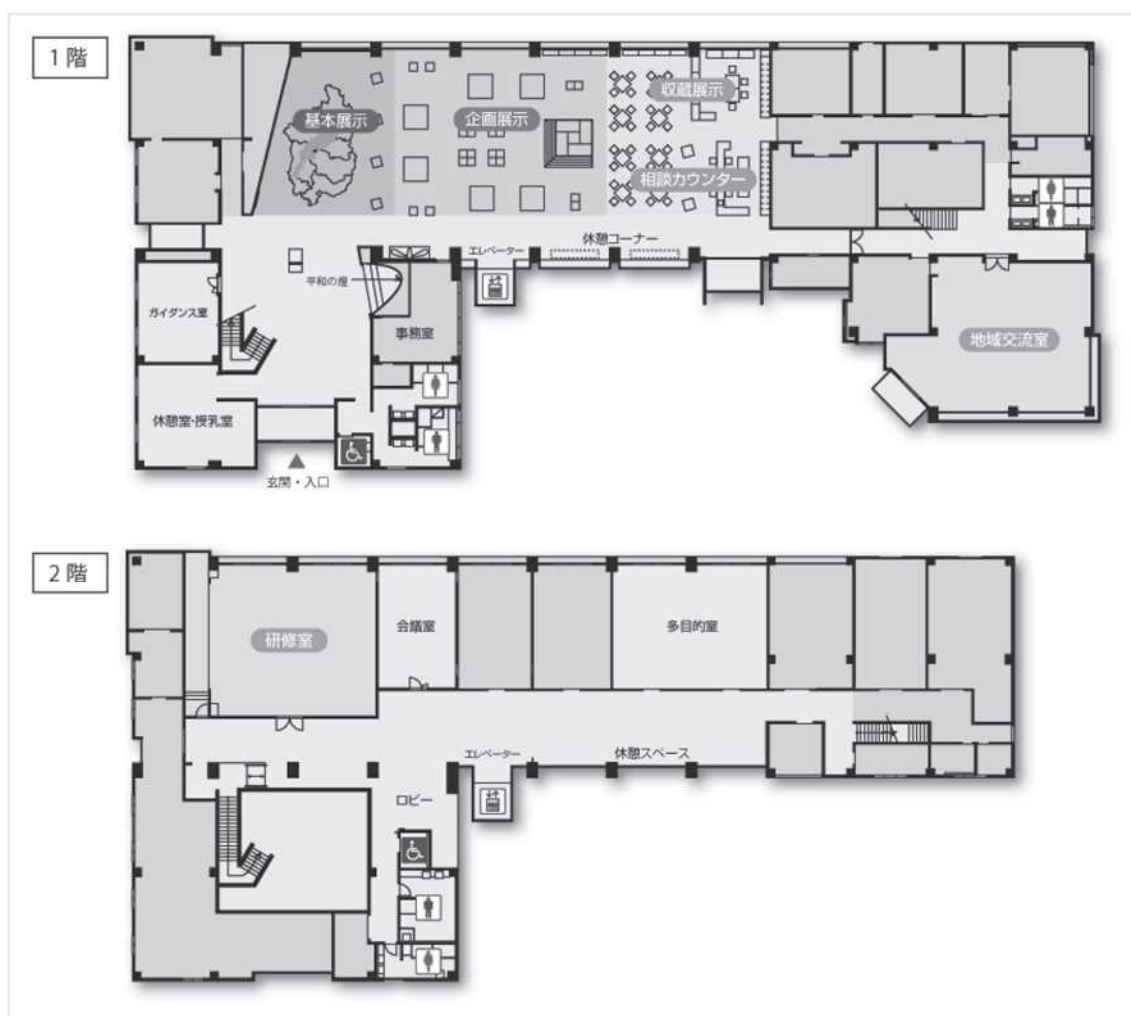
延床面積 3,115.45㎡

1階 1,759.03㎡

2階 1,356.42㎡

○開館年月日 平成24年3月17日

○平面図



6 利用案内

- 入館料 無料
- 開館時間 午前9時30分から午後5時
- 休館日 月曜日および火曜日（ただし祝日にあたる場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
※その他、業務の都合により休館する場合があります。
- 駐車場 約50台（無料）
- アクセス



- ・名神高速道路「八日市 I C」から車で約10分
- ・JR 琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ

7 関係規程

滋賀県平和祈念館の設置および管理に関する条例

平成 23 年滋賀県条例第 48 号

(設 置)

第 1 条 県民に戦争の悲惨さおよび平和の尊さを伝えることにより、平和を願う豊かな心を育み、もって平和な社会の発展に資するため、滋賀県平和祈念館（以下「平和祈念館」という。）を東近江市下中野町に設置する。

(業 務)

第 2 条 平和祈念館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県民の戦争に関する体験の記録その他の資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「資料」という。）を収集し、保管し、展示し、および利用に供すること。
- (2) 平和を願う豊かな心を育むために必要な普及啓発を行うこと。
- (3) その他平和祈念館の設置の目的を達成するために必要な業務

(開館時間等)

第 3 条 平和祈念館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

2 平和祈念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日および火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日である場合を除く。）
- (2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までの日

3 知事は、必要と認めるときは、第 1 項に規定する開館時間を変更し、または前項に規定する休館日を変更し、もしくは臨時に休館日を定めることができる。

(特別観覧の許可)

第 4 条 平和祈念館が保管する資料の熟覧、模写、模造、撮影その他の利用（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請し、その許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、前項の規定による申請があった場合において、次の各号のいずれかに該当するときは、同項の許可をしないことができる。

- (1) 平和祈念館における秩序を乱し、または善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 資料または平和祈念館の管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他特別観覧を許可することが適当でないと認められるとき。

3 知事は、第 1 項の規定による許可をする場合においては、資料または平和祈念館の管理上必要な限度において、条件を付すことができる。

(特別観覧の許可の取消し等)

第 5 条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第 1 項の規定による許可を取り消し、または特別観覧を制限し、もしくは特別観覧の停止を命ずることができる。

- (1) 前条第 1 項の許可を受けた者（以下「特別観覧者」という。）が詐欺その他不正の行為によって同項の許可を受けたとき。
- (2) 前条第 2 項各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 特別観覧者がこの条例またはこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (4) 特別観覧者が前条第 3 項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 当該許可に係る資料が災害その他の事故により特別観覧に堪えなくなったとき。
- (6) その他知事が特に必要と認めたとき。

(委 任)

第 6 条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、規則で定める。

付 則

この条例は、平成 24 年 3 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条第 1 号（資料の展示および利用に係る部分に限る。）および第 4 条の規定は、同月 17 日から施行する。

